

宮私幼だより

No. 131
社団法人 宮城県私立幼稚園連合会
〒980-0803
仙台市青葉区国分町三丁目6-12
佐正第二ビル 6F
TEL 022-263-7040 FAX 263-7925
<http://www.miyashiyo.or.jp/>
編集・発行人
理事長 村 山 十 五



事務局だより

○関係機関団体

- 1月8日 仙台市私立幼稚園教員研修大会（市民会館）
- 2月15日 県私学審議会（県庁）

○全日私幼連

- 1月22日～23日 教育研究担当者会議（京都市）
 - 1月26日 団体長会議（東京）
 - 2月12日 平成21年度・102条園研修会（東京）
 - 2月22日 常任理事会（東京）
 - 2月25日 東北地区会第2回団体長会議・第2回東北地区会及び事務局長会議並びに全日私幼PTA連合会東北地区連絡協議会（青森）
 - 3月12日 理事会（東京）
 - 3月13日 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・理事会（東京）
 - 3月30日 理事会小委員会（東京）
- （2頁に続く）



（只今全国展開中）

「新年度に向けて」



宮私幼理事長 村 山 十 五

毎年のことではありますが、個々の幼稚園では解決できない問題に取り組んでいくのが連合会の仕事と認識しておりますので、園長先生方のご意見とご協力を重ねてお願い申し上げ、新年度に向けての挨拶とします。

– 2 –

スポットニュース

◆平成22年度 私立幼稚園関係予算 概要

私立幼稚園に係る財源計画 における園児1人あたり単価

169,387円（対前年1.4%アップ）

（単位：円）

区 分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	伸び率	金額
幼稚園	地方交付税	133,000	136,200	138,400	140,200	144,400	1.7%	2,400
	国庫補助金	21,581	21,994	22,252	22,408	22,587	0.0%	0
	合 計	154,581	158,194	160,652	162,608	166,987	1.4%	2,400
小学校	地方交付税	235,700	239,200	240,900	242,300	247,900	2.1%	5,200
	国庫補助金	43,089	43,638	43,898	44,072	44,116	0.0%	0
	合 計	278,789	282,838	284,798	286,372	292,016	1.8%	5,200
中学校	地方交付税	235,700	239,200	240,900	242,300	247,900	2.1%	5,200
	国庫補助金	44,706	45,273	45,546	45,726	45,772	0.0%	0
	合 計	280,406	284,473	286,446	288,026	293,672	1.8%	5,200
高校	地方交付税	236,900	240,100	241,600	242,800	248,200	2.1%	5,200
	国庫補助金	50,469	51,360	51,960	52,325	52,743	0.0%	0
	合 計	287,369	291,460	293,560	295,125	300,943	1.7%	5,200



Close・up 理事会

平成21年度宮私幼理事会の概要

日 時 2月19日（金）午後2時～

場 所 宮私幼会議室

議 題

- （1）平成21年度第2回通常総会の議案について
報告事項 （社）宮城県私立幼稚園連合会旅費規定の一部改正について
第1号議案 平成21年度一般会計及び給付事業特別会計収支補正予算(案)について
第2号議案 平成22年度事業計画(案)について
第3号議案 平成22年度一般会計及び給付事業特別会計収支予算(案)について
第4号議案 第25回東北地区私立幼稚園教員研修大会(宮城大会)会計収支予算(案)について
その他 平成23年度園児募集の日程について

- （2）表彰規程の一部改正について
- （3）平成22・23年度役員改選について

報告事項

- （1）第25回東北地区私立幼稚園教員研修大会（宮

城大会）について

- ①第1次案内について ②役割分担の確認
- （2）平成21年度宮私幼教育研究発表大会について
- （3）就職内定学生実習期間の傷害保険の申込状況について
- （4）その他
 - ①「こどもがまんなかPROJECT」募金状況について
 - ②ハイチ大地震に対する義捐金について
 - ③消毒剤「ウエルパス」の斡旋について
 - ④みやぎっ子ルルブル推進優良活動団体表彰について

日 時 3月10日（水）午後2時～

場 所 宮私幼会議室

議 題

- （1）宮私幼優秀教員の表彰について
- （2）第25回東北地区私立幼稚園教員研修大会（宮城大会）経費基準（案）について
- （3）平成21年度宮私幼教育研究発表大会役割分担の再確認
- （4）宮私幼役員改選に伴う理事候補者の推薦について
- （5）その他

平成21年度宮私幼教育研究発表会

大会テーマ：「心ゆたかな子どもを育てるために」
～遊び・生活を通して～

平成22年 3月23日（火）仙台市泉文化創造センター（イズミティ 21） 参加者約750名



第1部 開会行事

ご来賓の皆様が多数御臨席のもと、始めに、村山理事長が、私立幼稚園を取り巻く環境は依然として厳しく、県内でも500名程度の園児が減少しており、閉園、休園もでております。

国は、「幼保一体化に向けての子育てシステム検討会」を立ち上げ、6月頃には方向性が示され、ここ数年で私立幼稚園も大きく変わる可能性があります。」と挨拶されました。

次に、今年度より設けられた優秀教員表彰で、



すがわら幼稚園の堀留美先生、なとり幼稚園の辻田紀子先生が表彰され、永年勤続表彰では、ろりぽっぷ保育園の佐藤真弓先生が

代表で表彰されました。

引き続き、県知事に代わって総務部副参事の小野寺氏より、「永年、幼児教育で培ってきた幼稚園のノウハウを生かして保護者を支援して下さい。また、幼稚園に求められるものは多様化しているので、環境整備と共に幼稚園教諭の資質向上に努めて下さい。」とご挨拶を賜り、宮城県議会議員長畠山和純氏と宮私幼PTA連合会副会長中島氏より、お祝いの言葉を頂きました。

第2部 分科会

第1分科会

「3・4・5歳児の生活と5歳児の育ち」

助言者：尚絅学院大学女子短期大学部教授

杉山弘子氏

発表者① 塩釜地区 遠山幼稚園 佐藤佳依先生：研究主題「3・4・5歳児が共に生活することが、豊かな心の育ちにどう寄与しているのか。」・・・「どんぐりで作って遊ぶ」実践例をもと

に異年齢児が試行錯誤しながら、助けたり、励ますなど思いやりの気持ちが芽生え、自然に関われるようになったとの発表があった。

発表者② 若林地区

六丁目幼稚園 横山奈津

美先生：研究主題「3・

4・5歳児が共に生活し、

互いに育ち合い、学び合

う豊かな生活と5歳児の

育ちについて考える。」・・・「栽培活動：パプリカ

を育てる」「発表会活動：劇遊び」の実践例をもと

に異年齢保育を通して、園生活が豊かになり、心の育ちに繋がったとの発表があった。



第2分科会

「幼児の健康・生活リズムと食」

助言者 東北生活文化大学短期大学部教授

朝倉 清氏

発表者① 宮城野地区 東仙台幼稚園 八巻淑

恵先生：研究主題「幼児一人ひとりが心身共に健康

に育つためには、どのような食生活習慣が必要

か。」・・・たくさんの食べ物が溢れている現在、

子どものみならず大人の食に対する意識が薄れて

いることをふまえ、現状を知るために行なったア

ンケート調査により、保護者の食への意識が変わ

り、家庭との連携が大切と実感したとの発表があ

った。

発表者② 仙南地区 ひかり幼稚園 佐々美智

枝先生：研究主題「じっくり遊んで、好き嫌いな

いので、何でも食べよう!」・・・心と身体が満た

された健康な生活をするために、長期休みに幼稚

園と同じ生活リズムで過ごせるようにと「早寝、

早起きノート」を作成した。

また、「週に一度、家庭から持ち寄った野菜を使っ

て、料理をして食べる」実践を通して、食事への



意欲を高めるためには、遊ぶ（空腹を感じる）/人との関わり、自然とのかかわり/料理作り（過程を知る）という事が重要であるとの発表があった。

発表した2園とも、「早寝早起き朝ごはん」が心身の健康につながる基本であること、さまざまな食の体験をすることの大切さを強調した。

第3分科会

「個と集団の育ち」

助言者 仙台幼児保育専門学校教員

猪岡 久子氏

発表者① 青葉地区 聖ドミニコ学院幼稚園

野地真実先生：研究主題「個と集団における影響の相互性を考える」・・・個から集団、集団から個への影響を縦割りクラスでの実践をもとに、保育において、個だけ集団だけを考えるのではなく、個の先には集団を見据え、また集団を考える時には、個の存在も意識しながら行なう必要があるとの発表があった。

発表者② 泉地区 成田中央幼稚園 結城さや香先生：研究主題「個と集団が育つためには、どのような教師の援助が必要であるかを考える」・・・年長5歳児組（3年保育持ち上がりクラ

ス）において、2学期から転入した園児の短縄跳びに取り組む実践例を通して、周囲の園児たちや教師の援助や関わり方により、対象児だけでなく、一人ひとりの育ちに変化や友達関係の広がりがみられたとの発表があった。

助言者からは、マイナスと感じられることが、成長する中で、生きていく上で、プラスに転じる起爆剤となること。集団が健全に発達するのに重要なキーワードは「見守る」ことである。

10歳位までは、特に教師の人間観、援助の仕方が子どもに大きな影響を及ぼすとの助言をいただいた。



第3部 講演会

『子どもの貧困と児童労働』

～今、世界と日本で起きていること～

特定非営利活動法人ACE

事務局長 白木 朋子氏



今回は仙台市出身で、日々貧困にあえいでいる子供たちのために活動されている白木朋子先生のご講演をいただいた。

私は、百年に一度の不況で日本でも貧困格差があるが、主に海外の児童労働についてお話ししたい。

ACEとは遊ぶ・学ぶ・笑うという意味で、インド・ガーナ・日本などで活動している。学生時代、インド旅行中に子どもの路上生活を見て衝撃を受け、エイズの赤ちゃんのホスピスを目の当たりにして子どもが犠牲になる現状に何も出来ない、どうしたらよいのか悩んでいるときにACEの存在を知った。児童労働の現状をビデオでいかに児童労働が危険で有害な状況にあるか見ていただきたい。例えば、インドのコットン畑では早朝から日没までの児童労働は、殺虫剤散布の中で素手で遺伝子組み換えのために作業している。また、ガーナではチョコレートの原料のカカオの実の採取から重い運搬まで子供たちが従事している。過酷な児童労働は決して私たちから遠くに存在しているのではなく、これらの製品はいずれも私たちの身近にあるものである。フィリピンでは、小学三年でドロップアウトして路上生活中に売春し、11歳で警察に保護され心身に深い傷を負ったケースもある。こうした少女らの相手には日本人もいる。中国でもジーンズ工場で過酷な労働条件で少女達が働かされている。これらはほとんどが親の貧困が原因である。

世界で最も多くの国が批准している「児童労働を禁止する国際条約」は15歳未満の労働を禁止しているにもかかわらず子どもの7人に1人が労働に従事している。このような現状は昨今の日本でも起きており、子どもの貧困確率は7人に1人と同じである。2割が一人親で、その5割が貧困であるが、両親がそろっていても派遣切り等で貧困になってい

る。例えば、学校の給食以外に食事が無い、病院に行けず学校の保健室で手当を受ける、授業料は無償だが、修学旅行・教材等の負担が大きいために、行くことが出来ない子供たちの心に傷を付ける。中高生に売春や万引きを強要する親。親の経済的理由で進学等が出来ず中卒の低学歴の者は良い就職先に恵まれない等の悪循環が繰り返されている。このような状況にもかかわらず、日本では教育費が減少している。海外でも教育は無駄という考えが根強い。また、学校が遠くて通えない状況もある。読み書きが出来なければ雇用に恵まれず、悪循環に陥っている。

ACEの実際の活動は、子供たちを危険・有害な労働から守るために、衣食住・教育・医療の実現化が必要である。

ガーナでは、子どもが小学校に行くのは当然という環境を作るためモニタリングに村の子どもを参加させ、大人にも話し合いに入ってもらった。その結果、壁がないために雨が吹き込んでいた校舎を軍からセメントを調達し、村人が募金や労働に協力して環境整備が出来た。親が自主的に負担し、教育局に働きかけて近くに中学校が出来、小学卒業生全員が進学できた。近くの保健所に歩いて二時間もかかるので、幼少から畑で労働してケガをしても手当が出来ず、かえって労働効率が悪かったが、行政に働きかけケガの治療を教えた結果カカオの生産が増え、親の生活も向上して62名の子供たちが入学できた。ガーナでは今まで親も学校も互いに不満だけだったが、今は双方のコミュニケーションが良くなった。

国内の募金活動として、ガーナ産のチョコレートのパッケージにACEの活動を知らせ、ガーナの生産者に正当な対価を訴え、また、児童労働反対のキャンペーンを行っている。

平成21年度第2回宮私幼通常総会

平成22年3月5日（金）13：30～ 仙台市戦災復興記念館（5F会議室）

宮城県総務部小野寺副参事、宮私幼PTA連会長渥美氏らご来賓がご臨席のもと、始めに村山理事長から、「民主党政権になりまして、『子ども・子育てシステム検討会議』が開催され、幼保一体化を含めた新たな次世代育成支援のための包括的・一元的なシステムの構築について検討が行われた。構成員には文部科学大臣、厚生労働大臣等となっており、まだ方向性が定まっていますが、全日幼としても意見を求められて、平成22年6月を目途に基本的な方向を固めようとしている。私立幼稚園団体としては、当面、公費の公平性を掲げ、幼稚園であろうと、保育所であろうと同じ金額を出してほしいと訴えていく。

また、認定こども園をベースに検討されていくだろうが、保育所側としては認定こども園とするためには課題も多く、一方幼稚園側では0～2歳児の保

育は困難であるが、全ての3～5歳児は幼稚園で幼児教育を行いたいとの思いを伝えていこうとしている。全ての0～2歳児は保育園で保育し、保育に欠ける3～5歳児は幼稚園の始業前、終業後に保育園で保育を受けると提案していくとのことですが、反発も予想されており、それらの情報を入手し逐一皆様と運動をしてまいりたい、間違いなく幼稚園と保育園との一体化が進むと考えられますので体制作りを行う必要があるとおもいます。」と挨拶がありました。

引き続き、小野寺副参事、渥美宮私幼PTA会長から少子化傾向の中でも公的資金がバランス良く使われるように訴えてまいりたいとご祝辞を賜りました。

全ての議事、案件も承認され無事総会を終えました。

平成21年度第1回宮私幼設置者・園長研修会

テーマ「今後の幼児教育への取組について」

講師：民主党政策審議会会長 参議院議員・医師 桜井 充氏

平成22年3月5日（金）11：00～12：00 仙台市戦災復興記念館（5F会議室）



三人のお子さんをめぐるへの森幼稚園に通わせたとおっしゃる桜井先生を国会会期中のお忙しい中、講師としてお迎えし、自論を交えながらの研修会を行った。

た。

子ども手当について、子育てに関わる家庭を支援することは良いが、親に現金で渡して良いものだろうか、保護者のパチンコ代や化粧品代になるのではないか。予算編成において、幼稚園関係の補助が削減され保育料が上れば意味がない。実質子どもに対するお金が増えないといけない。子育て支援というと我が党の女性議員は0歳児保育の充実、幼保一体化といったインフラの整備しか言わないが、旦那さんのサポート等子育ての環境（お金ではなく精神

面）を良くすること。社会の最小単位である家族がきちんとしていかないといけない。子育てと家族の仲の良さには関係がある。

税収の少ない日本の現状を諸外国と比較しながら公費の割合やスウェーデンでは福祉や教育が充実しているが0歳児保育は行っていない、家庭で子育てを行い母親は容易に職場復帰が可能となっているからである。

幼保の公費格差、幼稚園でも公私の格差を是正することが、教員の給与の格差解消に繋がる。

文科省でははっきり言わないが高校無償化に伴ない幼稚園や大学に係る補助が削減されることは由々しき問題と思っている。

資源の無い我が国にとって人材とは、もっとも大切な資源であり、その人材を育成していく点で幼児教育は非常に大切なので政策的に考えていかなければならない。

平成21年度全日本私立幼稚園連合会102条園研修会

平成22年2月12日（金）13：00～ アルカディア市ヶ谷 / 東京

吉田敬岳全日私幼連会長より開会の挨拶と「今後の全日私幼連の在り方」について講演がありました。続いて、全国の102条園の現状報告があり、その後、「幼児教育の今後」についてと題し、無藤隆白梅学園大学こども学部教授の講演がありました。

最後に、東京都私幼連が1月に開催した、102条園研修会に参加された滑川良一先生（北糺谷幼稚園）

より税の諸問題ならびに青色申告について研修報告がありました。

閉会に際し尾上正史全日私幼連副会長より「東京都と地方との行政対応に格差があり、地方においても議会等へ積極的な働き掛けが必要である。」と挨拶がありました。

幼 な 子 と と も に

幼稚園訪問記・尚絅学院大学女子短期大学部附属幼稚園

(平成22年4月から尚絅学院大学附属幼稚園と名称が変わります。)



〒981-1245 名取市ゆりが丘4丁目10-2
園児数108名 4クラス
(年少22名、年中32名、年長54名)

今回は、名取市ゆりが丘の坂道を登り尚絅学院大学の入り口にありますが、幼稚園に伺いました。

取材当日は、年度末で卒園式の練習や見学の方への対応で大変お忙しい時にお邪魔しましたが、園長先生に直接いろいろとお話を聞かせていただきました。

創立54年を迎え、八幡町からゆりが丘へ移ってから10年が経ち、園舎の周辺には緑がとても豊かで木々が茂る斜面など自然に抱かれて園児が元気に遊べるようにと園舎の向きにも配慮してあります。



園長 岩倉政城先生

斜面を登ればそこには広大な大学キャンパスが広がり、緑一面に芝の絨毯が敷き詰められています。園児一人一人が豊かな自然から味わう発見や驚き、その一つ一つに教師が寄り添い、それを生きる喜びに、そして学習を通した成長へと導いております。

尚絅幼稚園では

- 保育時間
9:00～13:30
- 預かり保育
13:30～18:00 (夏休み: 9:00～17:00)
- 給食
週1回
- 未就園児教室
3歳児(年間12回)、1・2歳(年間20回)
- バス送迎
3台で運行
- 教育目標
だれをも慈しむキリスト教の精神のもとに、こどもひとりひとりの個性が光り、仲間と育ちあえる次のような保育を目指します。
- (1)愛されていることを知り、愛することのできるこども
- (2)自分の意見や考えを持ち、友達とともに行動できるこども
- (3)ものごとに意欲的にとりくみ、最後までやりぬこうとするこども
- (4)全身を使って表現し活動するこども

《幼稚園の特色は・・・》

○自由な遊びを大切に : 生活の中で自然との共存を体験できるように自然環境を最大限に生かした園づくりをしています。「遊び」と「話し合い」を中心としたカリキュラムを構成し、子どもたちは自発的な遊びを工夫し展開しています。



○生活の中にイエスさまの教え : 花の日、収穫感謝、クリスマス、イースターなどの礼拝を中心にして、イエスさまのお話を聞きます。子どもたちにふさわしい讃美歌とお祈りによって静かな時をもっています。

○未就園児親子の会 : 未就園児の親子と一緒に、楽しいプログラム「プラム(3歳)」と「こうめクラブ(1・2歳)」を経験します。幼稚園教諭をはじめ大学教員が専門性を生かして運営しております。

○保育参加参観 : お子さんが園でどのように過ごしているのかを実際に保育に参加しながら見ていただいております。

○実習指導 : 大学附属の幼稚園として、学生の実習園の役割を果たしています。保育科の学生が訪れ、さまざまな実習を行います。保育専攻科や大学の総合人間科学部の学生も研究に訪れております。

○誕生会 : 毎月全園児が一緒にお誕生会を行い、皆で誕生日を迎えた子どもたちをお祝いします。クラスごとに話し合いながらおやつメニューをアレルギーの子にも配慮するなど、自分たちで決め、調理も自分たちで行っています。

○幼児教育センター : 短大保育科や他科の先生方による教育講座や音楽・造形などの楽しい親子活動が行われます。子育てに関する最新の情報を提供し、子育てを支援し、育児相談を行っています。

《通ってくる子どもたちは・・・》

仙台市内の長町方面、柳生・西中田方面、富沢方面、名取市内の愛島台方面、相互台方面、みどり台方面と広範囲になりますがバスで6コース運行し子どもたちの負担にならないように乗車時間に配慮しております。



(年長さんは卒園式の練習中でした)

多賀城市市長へ

「私立幼稚園就園奨励費助成の維持・確保についての要望書」提出

去る、1月19日に多賀城地区私立幼稚園連合会根来宣昭会長と宮私幼鎌田俊昭理事は、公務ご多忙の菊地健次郎多賀城市長にお会いし標記の要望書を提出しました。

席上、市長には真摯に要望書の趣旨をお聞きいただき、後日議会で話されたこととのことです。

ただし、今回は市も財政難に直面しており、今後も幼稚園と保育園の相違点や就園奨励費に関して理解して頂けるように少しずつでも運動をしていく必要性を痛感しました。



(市長へ要望書を渡す)

【地デジ化移行とその後】

2011.7.24にアナログ放送からデジタル放送に変わるとテレビで幾度となくPRされていますので皆さんもご存じと思いますが、ご家庭にあるテレビをすべてデジタル対応に買い替えるのは容易なことではありません。また、テレビに添付されているB-CASカードにも違和感があります。あの青色または赤色のICカードをテレビに差し込まないとテレビが観ることができないような仕組みになっているからです。このICカードは暗号化されている放送を解除するキー情報やコピー制御情報が保存されていて、有料放送を視聴する際にユーザー情報や契約期間などが書き込まれるようになっています。そして、某国営放送協会が大株主のB-CAS社が設立されテレビ受信機に関する情報を一社が握ってしまうことです。独占禁止法にも抵触するのではとも言われており、現在、実験が行われている、ラジオ放送のデジタル化でも同じ仕組みが用いられると考えられます。今はラジオを作って楽しむ人は殆どいないでしょ

うが、科学の入門用としてゲルマニウムラジオ(昔なら鉱石ラジオ)のキットが今でも販売されているのも事実、それも無くなる時代が来れば、子どもたちには、科学への興味を持つ足がかりが無くなります。あのICカード単体でも2,000円もし、カード読み取り装置も必要となりますから、テレビやラジオの価格にも含まれてしまいます。(ちなみにICカードは貸与されているので、紛失時に料金が発生)

ところで、2000年以降のパソコンには、テレビが観れる物も多く販売され、テレビ受信ボードも販売されているので、PCでTV視聴の方も多いでしょう。これも、アナログ放送停波に伴い観れなくなりますので、要注意です。更に、どうせ新しいテレビを買い替える必要があるのだからとテレビ放送周波数もVHF帯域からUHF帯域に引越しますから、関東圏では殆どがアンテナ交換となります。この地デジ化移行で政府は10兆円～20兆円の経済波及効果があると試算しているそうですが…。(@_@;)

～お知らせ～

○みやぎっずルルブル推進優良活動団体表彰 ひばり幼稚園 (2月22日)

○ハイチ大地震募金状況

46園 721,036円 (H22.3.31現在)

○こどもがまんなかPROJECT募金

49園 462,481円

3月23日の研究発表大会参加者より14,218円

合計 476,699円



訃報

12月23日 日置道閑氏(みどり幼稚園元理事長)ご逝去
2月18日 後藤眞一氏(長浜・万石浦幼稚園園長)ご逝去
3月11日 村山英記氏(元宮私幼理事長)ご逝去
3月29日 庄子傳治氏(愛子・大沢・折立幼稚園園長)ご逝去

【表紙によせて】

尚絅幼稚園の保育の様子

編集後記

宮私幼だより第131号をお届けします。

今年度は、3月末に第3号の発行ということで、3月23日に行われた宮私幼教育研究発表大会報告を掲載することができました。

昨年のゴールデンウィーク明けから、新型インフルエンザが日本に上陸し、2学期からは、小・中学校、幼稚園まで、感染者が広がることとなりました。季節性のものより感染力が強いことと、重症化すると死に至る確率が高いということで、県や保健所の指示を参

考にしながら、休園やクラス閉鎖、運動会や発表会等多くの人が集まる行事の開催を危惧するなど、事態の收拾に追われた園も多かったと思います。年が明けてみると、新型はもちろん、例年この時期に流行する季節性のインフルエンザも流行の兆しがなく……。それも含めて、予測できないことが起きた場合の素早い対応と決断に、園長としての重責を感じます。大過なくこの1年を終えることができ、感謝です。

担当 O.